

住友生命健康財団
2015年度(継続助成) スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム

選考結果のご報告

2015年10月

公益財団法人 住友生命健康財団

目 次

1. 選後総評	3
2. 助成対象プロジェクト一覧	5
3. 調査・研究助成 推薦理由	7
4. 実践助成 プロジェクト概要	8

2015 年度 選後総評

選考委員長 小野 喬

はじめに

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラムは、2010 年に住友生命健康財団の設立 25 周年を記念して、日本社会に適したコミュニティスポーツの意義と役割を調査・研究により明らかにし、コミュニティスポーツの実践を広めることを目的に創設した。

調査・研究助成は 2010 年からの 5 年間で 46 件・5,994 万円、実践助成は 2011 年からの 4 年間で 68 件・3,275 万円、東日本大震災復興支援特別助成は 2011 年からの 4 年間で 13 件・1,335 万円、計 127 件・1 億 604 万円を助成した。

2015 年度は継続助成のみを対象として募集を行い、調査・研究助成は継続 2 年目のみ、実践助成は継続 2 年目のみ、継続 2 年目と 3 年目の 2 ヶ年、継続 3 年目のみの何れかとした。

なお、2010 年 10 月助成から 2015 年 10 月助成までを第 I 期とし、その実績を踏まえて、2016 年 4 月助成から 5 ヶ年の計画で第 II 期を開始することになった。

選考プロセスと選考結果

調査・研究助成は継続 2 年目に 7 件、実践助成は継続 2 年目のみに 3 件、継続 2 年目と 3 年目の 2 ヶ年に 3 件、継続 3 年目のみに 7 件、計 20 件の応募があった。

選考体制は選考委員長 1 名、選考委員 5 名で、事前評価にもとづいて審議した結果、調査・研究助成の継続 2 年目は 4 件・500 万円、実践助成の継続 2 年目のみは 3 件・150 万円、継続 2 年目と 3 年目の 2 ヶ年は 3 件・149 万円、継続 3 年目のみは 7 件・332 万円、計 17 件・1,131 万円の助成が決定した。

選考のポイント

選考は、継続助成の応募要項に記載した選考基準をもとに行った。今回は第 I 期の最終年にあたり継続助成のみの審議であったので、選考では助成 1 年目あるいは 2 年目の進捗状況や成果を慎重に検討した。

調査・研究及び実践を通じて大前提となるのは、そのプロジェクトの現実性と継続性である。プロジェクトは創造的でなければならないが、専らに奇をてらったり、定石通り進めて冗長になるのも好ましくない。

今回の応募案件は、調査・研究部門については玉石混淆の観があった。選ばれた 4 件は、いずれもコンセプトが明確で事業の進め方も適切であった。実践部門については 2 年目、3 年目の案件はいずれも粒揃いで、それぞれ個性を有しながらも普遍的な課題を満足させるような内容であったため、選考委員の意見は一致して適切であるとの評価となった。

なお、選考委員会では、観光振興を目的としたスポーツは、コミュニティスポーツか否かという議論もあったが、コミュニティスポーツは、それも包含する概念であると結論づけた。

最後に

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラムは、5 年間の第 I 期を終え、今年度より第 II 期の助成プログラムがスタートする。我が国は成熟期を迎え、社会構造の変容とともに地域崩壊

が現実的な危機となりつつある。地方創生が叫ばれるなかで、心身の障害を抱えたり、長期療養等にある人々がスポーツ活動に参画できる環境をつくり出し、スポーツを通じて人々の精神的・社会的健康向上に寄与するつながりや交流を促進するなど、コミュニティスポーツを振興することは誠に時宜にかなっている。

スポーツ的な自律・自助と連帯のスピリットを基本理念に「市民の、市民による、市民のための地域づくり」を推進することで、市民意識を再構築し、次世代のために地域を営存させていくことが重要である。これまで5年の第Ⅰ期助成プログラムの成果が着実に成果をあげ、これから開始する第Ⅱ期の助成プログラムが、関係各位や多くの参画者の熱意によりコミュニティスポーツの振興に資するものになるよう切に望む。

○2015年度実施スケジュール

応募告知開始	2015年5月1日(金)
応募受付期間	2015年6月15日(月)～6月22日(月) 必着 ※応募件数 調査・研究助成の継続2年目:7件、実践助成の継続2年目のみ:3件、継続2年目と3年目の2ヵ年:3件、継続3年目のみ:7件、計20件
選考期間	2015年6月25日(木)～7月15日(水)
選考委員会	2015年7月22日(水) ※選考結果 調査・研究助成の継続2年目:4件・500万円、実践助成の継続2年目のみ:3件・150万円、継続2年目と3年目の2ヵ年:3件・149万円、継続3年目のみ:7件・332万円、計17件・1,131万円

○2015年度選考体制

選考委員長	小野 喬	日本スポーツクラブ協会 相談役、住友生命健康財団 評議員
選考委員	稲山 貴代	首都大学東京 大学院 人間健康科学研究科 准教授
選考委員	中村 好男	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
選考委員	福岡 孝純	日本女子体育大学 招聘教授
選考委員	水谷 綾	大阪ボランティア協会 事務局長
選考委員	佐藤 昭雄	住友生命健康財団 常務理事・事務局長

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム

2015年度 助成対象プロジェクト一覧

A. 調査・研究助成 継続（2年目） [助成件数：4件、合計金額：5,000,000円] *個人研究

プロジェクト名	多重被災による長期避難生活者の身体活動・参加と健康に関する調査 ～被災者の PTSD 症状改善と身体活動支援のためのプログラム開発～		
代表者	大規模災害後の心のケアを推進するボランティアの会 会長 天谷 真奈美		
所在地	京都府京都市	助成金額	1,500,000円
プロジェクト名	離島地域におけるスクエアステップを柱とした運動自主サークル（コミュニティ）育 成の意義について ～自主サークル育成方法の他地域へ移管の試み～		
代表者	特定非営利活動法人長崎ウェルネススポーツ研究センター 理事長 中垣内 真樹		
所在地	長崎県長崎市	助成金額	1,000,000円
プロジェクト名	公共スポーツ施設を核として指定管理者が促す地域協働を通じたコミュニティスポ ーツの促進 ～先進地域の発掘と事例調査による方法論の抽出～		
代表者	東京工科大学 助教 松橋 崇史*		
所在地	神奈川県藤沢市	助成金額	1,000,000円
プロジェクト名	視覚障がいパラリンピアン競技力向上とコミュニティスポーツ参加を目的とした 調査研究		
代表者	筑波大学人間系内 パラリンピック研究・支援グループ 筑波大学人間系教授 宮本 俊和		
所在地	茨城県つくば市	助成金額	1,500,000円

B. 実践助成 継続（2年目） [助成件数：3件、合計金額：1,500,000円]

プロジェクト名	小児がんをはじめ長期療養中の子ども達の体力維持のためのコミュニティスポーツ プログラムづくりと実践		
代表者	特定非営利活動法人チャイルド・ケモ・ハウス 理事長 大藪 恵一		
所在地	兵庫県神戸市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	大人も子供もワクワク！スポーツで輝け僕らのまち！		
代表者	AKISPO U-9 SUPER KIDS PROJECT AKITA 代表 加藤 光平		
所在地	秋田県秋田市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	ユニバーサルスポーツを活用した地域の輪形成プロジェクト ～トランポリンで、幼児から高齢者、障がい者を結ぶ～		
代表者	一般社団法人善行大越スポーツクラブ クラブマネージャー 櫻中 勝信		
所在地	神奈川県藤沢市	助成金額	500,000円

C. 実践助成 継続（2年目と3年目の2カ年） [助成件数：3件、合計金額：1,490,000円]

プロジェクト名	サイクリング in 四国西予ジオパーク		
代表者	のむらスポーツクラブ 理事長 熊谷 武		
所在地	愛媛県西予市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	障がいを持つ高校生の放課後スポーツクラブ「KAAC」		
代表者	江南高等特別支援学校 放課後活動クラブの会 会長 田中 明美		
所在地	新潟県新潟市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	社会的孤立や居場所のなさを感じる子ども・若者のステップアップ・フットサル		
代表者	特定非営利活動法人全国子ども福祉センター 理事長 荒井 和樹		
所在地	愛知県名古屋市	助成金額	490,000円

D. 実践助成 継続（3年目） [[助成件数：7件、合計金額：3,320,000円]

プロジェクト名	発達障がい児のコミュニティスポーツクリニックプロジェクト		
代表者	総合型地域スポーツクラブ HEROES 代表 井之上 千秋		
所在地	福岡県福岡市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	がんを経験した女性のための心とからだのケアプロジェクト		
代表者	公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会 理事長 川名 薫		
所在地	神奈川県横浜市	助成金額	500,000円
プロジェクト名	ミニ（エア）トライアスロン ～トライアスロンをコミュニティスポーツへ～		
代表者	都会と田舎を結ぶ食育ネット 代表 小田 清隆		
所在地	愛媛県内子町	助成金額	500,000円
プロジェクト名	海を歩こう 人間の力で。子供と海の絆		
代表者	サーフガード波守 代表 木村 陽二		
所在地	沖縄県久米島町	助成金額	500,000円
プロジェクト名	森・里山のスポーツ・楽しみ普及事業		
代表者	特定非営利活動法人落倉バックカントリーフィールド 理事長 高橋 誠		
所在地	長野県白馬村	助成金額	500,000円
プロジェクト名	子供の居場所作りと地域とのコミュニティ形成事業		
代表者	特定非営利活動法人木曾川文化・スポーツクラブ 理事長 日比野 隆夫		
所在地	愛知県一宮市	助成金額	320,000円
プロジェクト名	とちぎヤングスポーツフェスティバル		
代表者	特定非営利活動法人とちぎユースワークカレッジ 理事長 横松 陽子		
所在地	栃木県宇都宮市	助成金額	500,000円

2015 年度 調査・研究助成 推薦理由

A. 調査・研究助成 継続（2年目）

プロジェクト名 : 多重被災による長期避難生活者の身体活動・参加と健康に関する調査
～被災者の PTSD 症状改善と身体活動支援のためのプログラム開発～
代表者名 : 大規模災害後の心のケアを推進するボランティアの会
会長 天谷 真奈美

<推薦理由>

東日本大震災の長期避難生活者は、震災後 4 年が経過した後も、帰宅困難であり、二次的な精神的不健康のハイリスク状態にある。助成 1 年目は、震災後の住民の精神的健康状態等の調査を実施し、一定の成果が出ている。助成 2 年目は、その実態調査の結果を基盤とし、被災者の PTSD の改善に役立つ支援ツールと普及方法等を開発することを目的とする。その成果を大いに期待したい。

* * *

プロジェクト名 : 離島地域におけるスクエアステップを柱とした運動自主サークル（コミュニティ）育成の意義について ～自主サークル育成方法の他地域への移管の試み～
代表者名 : 特定非営利活動法人長崎ウェルネススポーツ研究センター
理事長 中垣内 真樹

<推薦理由>

少子高齢化・過疎化が進む離島地域において、社会的に十分な支援が行き届いていない人々に対して運動プログラムを提示し、自主的なサークル活動を通じて自律したコミュニティ形成を促そうというオーソドックスな取り組みである。

初年度に続き、一見平凡だが参加者の身体的・心理的側面への影響や自主サークル活動の意義について量的・質的に貴重な知見が得られることを期待したい。“地域コミュニティづくりに王道なし”と言われるが、あくまでも当該する新上五島町と対馬市にピントを絞り、フィールドワークを主体として“事実から真実へ”の道を描き出す活動を希望する。

* * *

プロジェクト名 : 公共スポーツ施設を核として指定管理者が促す地域協働を通じたコミュニティスポーツの促進 –先進地域の発掘と事例調査による方法論の抽出–
代表者名 : 東京工科大学 助教 松橋 崇史

<推薦理由>

コミュニティスポーツの実践を支える公共スポーツ施設の指定管理者による地域協働は重要であるが容易な課題ではない。今年度の研究は、申請者らの永年にわたる研究成果（調査データ）に昨年度の研究結果を加えて、地域協働をもたらす自治体側と指定管理者側の要因（ならびにその関連）を抽出し、それらが地域協働の促進に与える影響とその効果について検証しようとした。

本研究を継続することによって、公共スポーツ施設を核としたコミュニティスポーツ促進の方法論が提案されるよう期待したい。

プロジェクト名 : 視覚障がいパラリンピアン競技力向上とコミュニティスポーツ参加を目的とした調査研究

代表者名 : 筑波大学人間系内 パラリンピック研究・支援グループ
筑波大学人間系 教授 宮本 俊和

<推薦理由>

助成1年目の研究では、視覚障がいパラリンピアンおよび競技指導者を対象に、競技力向上に関する課題とコミュニティスポーツに関する実態の把握について、着実に調査が進められている。助成2年目の研究では、視覚障がい者が健常者と共に参加するコミュニティスポーツとパラリンピアン選手のタレント発掘など大きな目的が掲げられている。

健康に関わる社会的な支援が十分でない人たちを対象にしたコミュニティスポーツへの参加促進と支援方策について、さらなる展開が図られ、2年間の研究成果の還元についても期待したい。

* * *

スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム

2015年度 実践助成 プロジェクト概要

B. 実践助成 継続（2年目）

プロジェクト名	小児がんをはじめ長期療養中の子ども達の体力維持のためコミュニティスポーツプログラムづくりと実践
団体名	特定非営利活動法人チャイルド・ケモ・ハウス（兵庫県神戸市）
実践概要	助成1年目は、小児がんをはじめ長期入院および在宅療養中の子どもたちへの体力維持プログラムの開発を行い、スポーツプログラムの実践へとつなげた。助成2年目は、小児がん専門医をはじめ、がんサバイバーなど多様な人材の協力体制を組み、定期的かつ継続的なトレーニングプログラムの構築を目指す。

プロジェクト名	大人も子供もワクワク！スポーツで輝け僕らのまち！
団体名	AKISPO U-9 SUPER KIDS PROJECT AKITA（秋田県秋田市）
実践概要	助成1年目は、将来を担う子どもたちに対して、スポーツ+α（スクール事業、職場体験、コミュニケーション講座等）の機会をつくり、子どもと大人の交流の場を作ることができた。助成2年目は、スポーツの実践とともに、地域の人材や地元企業など様々な地域資源を活かした講座やイベントを実施する。

プロジェクト名	ユニバーサルスポーツを活用した地域の輪形成プロジェクト ートランポリンで、幼児から高齢者、障がい者を結ぶ
団体名	一般社団法人善行大越スポーツクラブ（神奈川県藤沢市）
実践概要	助成1年目は、出張トランポリン教室を開催し、幼児・高齢者・障がい者・健常者との交流をはかった。助成2年目は、トランポリン教室を継続しながら、高齢者や障がい者に配慮した手すりの付いたケアトランポリンを加えて、さらなる交流人口の拡大を目指す。

C. 実践助成 継続（2年目と3年目の2ヵ年）

プロジェクト名	サイクリング in 四国西予ジオパーク
団体名	のむらスポーツクラブ（愛媛県西予市）
実践概要	助成1年目は、自然や生態系、人の暮らしがそのまま表れている「四国西予ジオエリア」において、実行委員会を立ち上げ、サイクリング大会を実施し、サイクリングクラブの発足につながった。助成2年目は、サイクルガイドを養成し、モデルコースやモニターツアーをつくり、サイクリングイベントの拡充と定着化をはかる。助成3年目は、さらなる人材育成をはかり、本格的なツアー募集を計画している。

プロジェクト名	障がいを持つ高校生の放課後スポーツクラブ「KAAC」
団体名	江南高等特別支援学校 放課後活動クラブの会（新潟県新潟市）
実践概要	助成1年目は、放課後の居場所がない高等特別支援学校の生徒が参加できるバスケットボールクラブとフロアホッケークラブを立ち上げ、子どもたちのコミュニケーション力や体力の向上につなげた。助成2年目は、近隣の中学校の特別支援学級の生徒を対象に、クラブの体験会を開催し、参加者の拡充をはかり、助成3年目は、市内全域を対象を広げ、他校にも放課後活動クラブが広がるよう広報活動を進める。

プロジェクト名	社会的孤立や居場所のなさを感じる子ども・若者のステップアップ・フットサル
団体名	特定非営利活動法人全国こども福祉センター（愛知県名古屋市）
実践概要	助成1年目は、虐待・非行・孤立などの問題を抱える少年たちの居場所として、月1回のフットサルを開催し、80名以上が参加して少年同士の関係性を深めることができた。助成2年目は、少年たちにもフットサルの運営を担ってもらい、主体性や共同性を育む。助成3年目は、核となるメンバーを育て、継続的な取り組みとなるようチームビルディングに努める。

D. 実践助成 継続（3年目）

プロジェクト名	発達障がい児のコミュニティスポーツクリニックプロジェクト
団体名	総合型地域スポーツクラブ HEROES（福岡県福岡市）
実践概要	助成1年目は、身体活動の機会が少ない発達障がい児を対象に、専門家によるコーディネイティブ運動を取り入れたレクリエーション（遊び）を実施した。助成2年目は、既存のクラブ活動に参加するなどして身体活動量を確保したり、学校体育に積極的に参加するなどの効果を確認した。助成3年目は、集団行動や仲間との関わりやルールを守るといった社会性を育むことを目標に、集団で体を動かすプログラムを構築する。

プロジェクト名	がんを経験した女性のための心とからだのケアプロジェクト
団体名	公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会（神奈川県横浜市）
実践概要	助成1年目および2年目は、乳がんなどの手術後、後遺症や再発の不安をかかえて孤立しがちな女性たちを対象に、リハビリ体操教室、啓発セミナー、サロンを実施し、QOLの向上や仲間作りの支援を行った。助成3年目は、新たな参加者の獲得に向けて広報を強化するとともに、がんを体験した女性たちが直面する様々な課題について社会的な認知を広めていく。

プロジェクト名	ミニ（エア）トライアスロン ～トライアスロンをコミュニティスポーツへ～
団体名	都会と田舎を結ぶ食育ネット（愛媛県内子町）
実践概要	助成1年目は、自然豊かな愛媛県南予地域の活性化を目指して、谷川集落でトレイルウォークコースを学生と地域住民で整備した。助成2年目は、他地域にも拡大して周遊ルートを整備するとともに、廃校を利用してカラーリングを実施し、地域のコミュニティ維持に努めた。助成3年目は、地域資源を活用し、自然を体感するトライアスロンのミニ版を作り、コミュニティスポーツとして成り立たせる。

プロジェクト名	海を歩こう 人間の力で。子供と海の絆
団体名	サーフガード波守（沖縄県久米島町）
実践概要	助成1年目および2年目は、沖縄県久米島町で、子どもたちが海に親しみを持ち、危険回避やその対処方法について学ぶことを目的に、スタンドアップパドルボードを活用した体験事業を実施してきた。助成3年目は、子どもたち自身がロングクルーズとオーバーナイトキャンプを企画実施し、子どもが自ら考え、総合的な判断力を培うことができるようサポートする。

プロジェクト名	森・里山のスポーツ・楽しみ普及事業
団体名	特定非営利活動法人落倉バックカントリーフィールド（長野県白馬村）
実践概要	助成1年目は、長野県白馬村において、ノルディックウォーキングやスノーシューなど、子どもからお年寄りまで楽しむことができるスポーツの提供や、白馬の新しい楽しみ方を提案するなど、地域の活性化に取り組んだ。助成2年目は、季節に応じたスポーツの提供や指導者のレベルアップ、首都圏等への広報活動を行なった。助成3年目は、滞在型健康増進プログラムの開発とクラブハウスづくりに取り組む。

プロジェクト名	子供の居場所作りと地域とのコミュニティ形成事業
団体名	特定非営利活動法人木曾川文化・スポーツクラブ（愛知県一宮市）
実践概要	助成1年目および2年目は、地域の子どものための校外活動の一環として、地域の大人たちと触れ合いながら、学校では学べない生活体験プログラム（案山子づくり、イナゴ取り、餅つき、親子工作、各種スポーツなど）を月に2回小学校を拠点に実施した。助成3年目は、学校区以外の子どもたちとも交流できるよう、学期ごとに場所を変えて実施する。

プロジェクト名	とちぎヤングスポーツフェスティバル
団体名	特定非営利活動法人とちぎユースワークカレッジ（栃木県宇都宮市）
実践概要	助成1年目および2年目は、栃木県内のひきこもり、ニートの若者を対象に、人との関わりの場の提供と体力の回復を目的に、年2回、学生が中心となり実行委員会を組織して球技大会と体育祭を開催し、毎回、若者支援団体6～7団体、100名前後の若者らが参加した。助成3年目は、大会等の運営の一部を他団体の参加者にも振り分けるなど、より協力団体との連携をはかりながら、若者の社会的自立への力を育む。

財団概要

名 称 公益財団法人 住友生命健康財団
所 在 地 〒160-0003 東京都新宿区本塩町 8 番地 2 住友生命四谷ビル
TEL (03) 5925-8660 FAX (03) 3352-2021
設立年月 1985 年(昭和 60 年)6 月
2011 年(平成 23 年)4 月 1 日公益財団法人へ移行
理 事 長 須崎 晃一

設立の趣旨

当財団は、住友生命設立 60 周年記念事業の一環として設立されました。
広く国民に心身の健康に関する啓発活動を行い、あわせて地域の健康増進
に貢献する活動を推進することにより、国民の心身の健康と健やかな生活
の増進を図り、もって社会公共の福祉に貢献することを目的としています。

◆ホームページでイベント情報などをお知らせしております。

住友生命健康財団

検索

<http://www.skzaidan.or.jp/>